

会長、積年の夢かなう

上信会越／毛猛山塊 未丈ヶ岳

トマではおなじみの未丈ヶ岳。トマ歴 20 年近くにもなる飯田さんは、まだ行ったことが無いという。2 年目を迎える私もまだ行ったことが無いということで、すんなりと行先が決まった。

【日程】

2016 年 3 月 20 日 (土)
～3 月 21 日 (日)

【メンバー】

飯田 (L)、竹澤

【地形図】

奥只見湖、未丈ヶ岳

【記】竹澤

3月20日 (土) :曇り時々あられ

天気予報は微妙で、同エリアから他へ転進していったトマのパーティもいたが、そこはブレない(?) 飯田会長。開通したばかりの奥只見シルバーラインを抜け、銀山平に車を停めて準備をしていると、地元の山スキーヤーと思われる車が何台もやってきた。しかし、どんよりとした空とばらばら降る雪を見て、あっさり引き返していった。取付きはシルバーラインのトンネルから西へ二本目の尾根。取付いてすぐの肩でワカンを装着する。赤崩山の東南尾根に乗り、予定していた赤崩山ピークは踏まずに日向倉山を目指すことにした。今回はゆとりの行程のため、苦手なルーファイを実践するまたとないチャンス。大抵は俊足の先輩方についていくことに精いっぱい、地図を見ている余裕があまりない。こまめに地図を確認し、飯田さんのGPSで時折答え合わせをしながら進む。辺りは終日ガスっていて、視界があまり良くなかったが、その分コンパスワークに慎重になれたので良かった。日向倉のピークで一組の山スキーヤー・ボーダーに遭遇し、言葉を交わす。その後順調に進み、p1, 272を超えたあたりの平らな場所に幕を張った。18:00には就寝としたが、時間が早かったのかなかなか寝付けなかった。

3月21日 (日) :曇り時々あられ

翌朝は 4:00 前に起床、朝食は飯田シェフのフォーを美味しく頂いた。天候によってはこのまま下山する可能性もあったが、テントの外は穏やかで、予定通り山頂を目指すこととした。今回の山行では雪庇割れや藪を心配する声を頂いていた。実際は思った以上に雪があり、藪は気にならなかった。ただ、C1 から未丈ヶ岳へ向かう尾根の途中で油断をしていて結構深い穴に落ちてしまった。この穴は下方向にも前後にも足がかりが無く、体とザックの厚みで挟まっている状態であった。手も雪面に届かないのでお助けで引き上げてもらったが、単独の場合はどうするのだろうかと思った。

視界の効かない広い未丈ヶ岳山頂では、飯田さんが頂上を示す柱を見事発見。登頂の証写真撮影することが出来た。その後 C1 でデポした荷物を回収し、下山する。2 日間途切れなくガスっていたが、あと 2 時間くらいで取付き地点という所まで来てようやく青空の断片と太陽が顔を覗かせた。久々に見る白以外の色彩に、異様に興奮してしまう。奥只見湖の対岸に連なる尾根もはっきり見える。下山は往路を忠実に戻ったが、行きには無かった赤布が要所に張られ、我々のものではない複数人の足跡が、取付き地点までしっかり付けられていた。人気のルートなのだろうか。今度は沢登りで未丈ヶ岳を訪れてみたい。

【行程】

3/20 銀山平 (8:30) ～日向倉山 (12:15) ～C1 c1, 240 (13:20)

3/21 C1 (6:00) ～未丈ヶ岳 (8:30) ～C1 (10:00/10:20)～銀山平 (14:00)



白銀の世界



落ちる女



積年の(?)夢かないご満悦